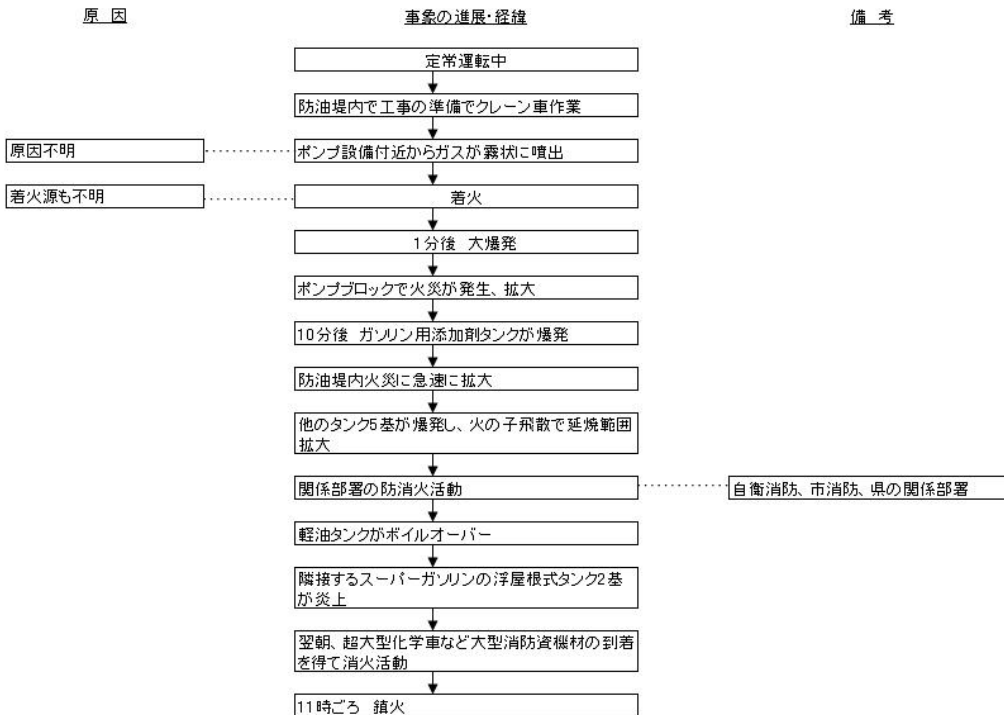




油槽所の漏洩油に着火し石油タンク爆発火災

事象進展図

00232	油槽所の漏洩油に着火し石油タンク爆発火災
発災年月日	1987年6月2日
装置	石油タンク油槽所
運転状況	定常運転中(防油堤内で改造工事中)
特徴	タンク油槽所で霧状に噴出した石油製品の着火と大規模延焼火災



再発防止策
1. 直接原因は不明。原因の究明を行いその対策を実施する。 2. 防油堤内に工事用作業所、ポンプなどの火気使用のスペースを持っているが、別場所を検討する。 3. 稼働中の防油堤内の火気使用工事許可手続の見直し、および会社側の立会い基準の見直し。
安全専門家コメント
1. タンク消火に冷却でなくタンク内に水を入れたのはボイルオーバーの原因となった。早期に泡消火剤が確保され使用していればボイルオーバーを防止したかも知れない。 2. この火災で大型消防資機材が威力を発揮した。一旦効果のあった消火が熱風などで再燃することをよく見かけるが、大型消防資機材で一気に消火すると再燃の防止に効果的である。

引き金事象発生の原因
原因不明

事故の引き金事象
石油製品の噴霧漏洩

事故に関係した直接・間接要因
《保守・点検要因》 ・タンクあるいはポンプなどの故障、機能喪失(推定)



油槽所の漏洩油に着火し石油タンク爆発火災

添付資料・参考文献・キーワード

参考資料（文献など）

- ・塩路保夫、シェル石油リヨン油槽所火災事故、火災爆発事故事例集、P.155-158、2002年
- ・TNO, FACTS, No.9731

▶ 添付資料



[図1 公設消防隊到着時の状況](#) (378 KB)



[図2 作業場所等の配置状況とタンク爆発状況](#) (266 KB)

▶ キーワード(> 同義語)

🔑 陸上出荷

🔑 貯蔵系

▶ 関連情報